

刊夕日十月四

常磐每日新聞

定価 一部金五銭 一ヶ月金五拾銭 郵税別
 廣告料 五號十二字 一行 金五拾銭
 日曜祭日の日 休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社

無量壽の開顯

眞 繼 雲 山

(二)

肉体的な立前の私とはイ
 ヤモウ埒もないもので、日
 夕名利を友とし、貧苦に悩
 む煩惱のかたまりで、他人
 はおろか妻子とさへも隔た
 りをもつ孤立的なものであ
 る。しかし第二の立場に轉
 する時、自分や他人を實現
 せしめた自然の精神は、も
 と／＼一つのものだといふ
 ことがうなづかれる。個人
 々々を生む背後には大きな
 共通の力が流れてゐる。そ
 の共通の流れを或る人は、
 『全人』といつた(個人と對
 立する言葉である)自然の
 精神とは全人の願ひである
 全人の願ひとは、佛の願ひ
 であり、如來の本願である
 日蓮宗にいふ『本佛』と淨
 土門にいふ『本願』との間に
 は、途方もなき距離ありて
 丸で別物のやうにさへ考へ
 られるも、それが背後の力
 たる点においては一つであ
 る『以何令衆生』といひ『攝
 取不捨』といふ言葉に違ひ
 はあつても、永遠に生かさ
 ずば已まぬといふ全人の願
 ひとしては一致する。

体や、財産や名譽の垣根に
 よつて、嚴然と自己を區別
 するやうであるも、五十年
 の壽命と共に一切の垣根は
 徹去せられて全人に還る。
 また或る人は、その全人の
 ことを『いのち』といつた。
 個人々々に橋壁を設けて争
 ふてゐるにせよ、命たるに
 すき焼肉
 を生卵に
 浸して食
 べると咀嚼不足のまゝ咽
 喉に送られ易く、消化液
 の作用をうけぬのでよく
 ない。

ノート

吉田 甫

變りはない、天地は一つの
 無窮の生命である。
 背後の流れを見ず、全人
 の願ひに觸れ得ない者の壽
 命は、肉身の終歸と共に斷
 たれる。垣根を重視して孤
 立を考へるとき、何人にも
 壽命がある。それは淋しい
 二明日の献立二
 【朝】みそ汁—小芋 いも
 から
 【晝】更科揚げ—さんぎ豆
 腐—さら 更科あ
 げ—しょう油
 【晩】にしめ—うど はす
 昆布

ものに相違ないが、我他彼
 此といふ橋壁を撤したとき
 に、永遠の世界はこの世な
 がらに展開する垣根のない



短歌

吉田 甫

○電燈をおろしてひくく床
 ぬちに雨の夜は静かにチ
 エホブを讀みぬ
 ○静やかに梅雨降る夜を床
 ぬちに牧水の歌を讀み明
 かしけり—(和弘兄へ)—
 ○眼を病める妹は今宵もま
 た風呂敷を電燈にかぶせ
 てねたり
 ○冷えびえと冬陽の残る白
 壁にしばらく立ちて物を
 想へぬ—(歌二兄へ)—

○心病めば歩むともなく來
 し野邊のおほかた草は芽
 ぶきておるも
 ○暖かき春とはなれど湯の
 岳の窪地の雪はいまだ消
 えさり
 ○病むのどの痛みこらへて
 床の間のひつそり咲きに
 しらんを見てゐたり

平館

入場券
 割引販売
 一名二付 五銭安
 平町 土橋
 マルマン商店
 電話四八九番

木村外科醫院

花柳病専門
 入院自炊の便あり
 平町五丁目橋際
 電話三〇九番

高級貸切 不二タクシー

電 3 2

旭硝子株式會社製品 板ガラス

旭硝子株式會社製品
 赤菱印
 硝子 食器
 硝子 食器
 其他 各種

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)
 仙臺市榮町(電話五九七番)

御入學、御進級、御卒業ノ
 プレセントニハ是非御時計ヲ
 御用命ハ……驛前通りノ
 星野時計店へ願マス
 記念トシテ來ル廿六日迄粗景品付
 正札ノ一割引特賣御修繕ハ大勉強
 致シマス

吉田眼科病院

新形提灯賣出し
 櫻の節も愈々近づきました
 店頭……店内……の裝飾に
 最新形の提灯を御利用下さい
 電燈笠用櫻花コード付 提灯 一ヶ 三十五銭
 櫻模 様付 角形 提灯 〃 三十八銭
 櫻模 様ハード形 提灯 〃 三十銭
 櫻模 様 中 柳 提灯 〃 二十五銭

スガノヤ提灯店

電話九五番

吸入用酸素純度99%
 度量衡
 モノサシ
 マス
 ハカリ
 体温器
 寒暖計

關内藥局

電話四〇番

月曜是非

取締りと改正

石城郡下の町村會議員選舉は去る五日の江名町會議員の改選を皮切りに來月頃

懇篤な

挨拶状を残して

橋本校長去る……

出發は明日午後二時

既報新潟縣高田師範學校長に榮轉された橋本文壽氏は明日日發午後二時十五分磐

らぬ、ついでには選舉の取締りも法の改正も勿論無用で

鯉節代用品

製造設備を充實

試験的から本格的に

石城郡小名濱漁業組合では昨年中より鯉節の代用品製造を試験的に行つて居た

平商友會の總會

會長以外全役員の改選

平商業學校商友會にては昨日午後一時より母校講堂に於て總會を開き豫算、決算

山神祭當日

湯本水道祝賀式

石城郡湯本町では過般竣功した上水道の祝賀式舉行の爲め豫てより協賛委員を擧

農事傳習

入所式舉行

石城郡神谷農事試驗分場では明十一日午後一時より同所に於いて八年度農事特別

郡下の統計委員中

三名優良表彰さる

石城郡下各町村の優良統計委員として來る廿六日若松市に開會される縣下統計大會で表彰さるるのは左記三名である

平町人事

回出生

△仲町三 南部尊雄氏三男 良雄

△南町三三 加藤一三氏二男 恭平

△回死 亡

一冊の代金

御希望通りな

五冊の雑誌

自由に讀める

川崎文庫

申込次第(規則書進呈)

不良の父親の多くは 大酒呑み

廿四の少年に就いて
平検事局調べ

平検事局に於ける昨年度中の少年犯罪者取調べ数は七十餘名にて此の内起訴された者は二十四名であるが、是れ等少年の大部分は診断の結果精神變質者と精神薄弱者ではの不完全な子供を生んだ父母の性癖嗜好を調

雨を衝いて

盛大な忠魂祭

既報郡出身兵忠魂祭は本日午前十時より松ヶ岡公園忠魂碑前に於て神佛兩式に依つて盛大に舉行され折柄の雨模様にもめげず各遺族及び一般参拜者陸續と詰め掛けたが餘興の武術大會は降雨の爲め平署會議室及び道場に變更した當日の式次第左の如くである

△支會長開式の旨を告ぐ
△祭文
△石城支會長祭文
△在郷軍人聯合分會長祭文
△來賓祭文
△司會者拜禮

来る十九日に

聯合消防檢閲

催された二町廿二ヶ村消防幹部大會にて協議の結果同署管内春期消防檢閲は来る十九日と決定した

武徳會功勞

望月氏表彰

平町望月良藏氏は多年警城武徳會の發展に盡力したのて本日平署會議室に催された武術大會に於いて小田部

雄辯大會の入賞者

縣下大會に草野の片寄君

既報第二回郡下聯合青年團雄辯大會は昨日午後一時より警中講堂に於て大河原副團長始め外數氏審判の下に開催されたが入賞者は左の如く来る二十一日の縣下聯合青年團の雄辯大會に草野村片寄一君を出場せしむる

百五十四件の内

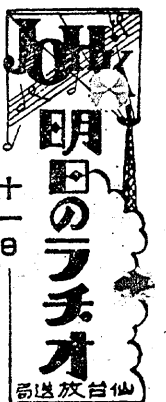
未済僅かに九件

平區裁判所に於ける金錢債務調停の申立件数は實施以來本日迄百五十四件にて未済は僅かに九件と言ふ好成绩を示して居るが縣下に於ては第二位の好成绩であると

木賃宿で落合つた

三名の脅迫團捕る

平町十五丁目見島材木店に昨九日午後一時頃三名の労働者風の男が押掛け主人に面會して金錢を強要し五十錢貰つて歸つたが再び引返して強談せんとしたので同家で斷ると玄關にあつた帽



明日のラジオ
報豫氣天
今晚も明日も
の風晴曇半す

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
パイプオルガン 東京日本橋三越より中繼 演奏
小暮正夫
後六、二五 基礎佛語講座
(一) 目黒三郎
後七、三〇 人形淨瑠璃

明日の部

前六、三〇 基礎英語講座
(一) 岡倉由三郎
前九、一〇 料理献立「鮎のゆあん漬」河内捨松

別れの辛さに

修業は見合せ

石城郡江名町字南町大工職留七次男貞吉(九)は最近大工職見習の爲め上京する筈であつたが同町内カフエーミヤコ(三)の女給給子(三)と懇ろになり同女と別れの辛さに去る八日兩名手を執つて行衛を晦したので本日平署に捜査方を願出た

泥酔衝突

傷を負つて
正氣に返る

石城郡警崎村字藤原山崎久五郎(四)は昨九日午後四時頃商用で平驛前を通行中強か泥酔して居た爲め停車中の貨物自動車に衝突轉倒して右足及び顔面に一週間の傷を負ひ平署員の手當を受けて正氣に返つた

謹告!

御鼻負皆々様の御勧めに依りまして、今度花の松ヶ岡公園記念碑前に賣店を出させていたが、さきましました。是非御立寄り下さいませ様御待ち申上ります。

平町田町

ならぎ 奴

電話二二番

- 平職業紹介所報告
回人を求める方
△見守 十四才 尋卒 仕
着外年十圓(飯野村某)
△看板見習工 十六才 高卒 給
卒 仕着小遺(平町某)
△商店員 十七才 高卒 給料面談(平町某)
△小使 三十一才 高卒 給料面談(大野村某)
△鐵工見習 十六才 高卒 給料面談(内郷村某)
△書生 十七才 高卒 給料面談(茨城縣某)
△漁夫 二十四才 高卒 給料面談(赤井村某)

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百一十一號 佐々木見山

思ひ掛けぬおそで

吉田織部は家來文藏より菊地大六の奸手段を聞いて大いに怒りましたが、やがておそでに向ひ

織「貴様の兄采女と渡邊金彌の失態を救ひし菊地は貴様を妻にする爲であらう、

君子はその危をくするしめずと申す事もある、人の過失に附け入つて己れ的情慾を

みたさんとは卑劣な奴だ、しかし此事を表沙汰にいた

すと采女も渡邊も咎めを受けるであらう、依つて貴様

は當分當家に居れ、拙者が計策を以つて菊地を押へ付

け渡邊の許へ興入れをするやうにいたし遣はす」

おそで「それは有難いことでございます」

イヤおそでは大層喜んで御家老が後援者になれば菊

地の非望を取控くことも出来、さうなれば渡邊の許へ

縁付くことも出来る誠に有難いとやうやく安心した、

スルト佐々木見山が

佐「どうぞ宜しくこの女子の事は大夫の御威光を持ち

まして無事に納まるやうお取計らひ願ひます」

と呉々も頼みます、おそで其の夜はこれに一泊した

し翌朝番町の齊藤彌九郎の許に戻つた、此方は菊地大六、五月十四日おそでが家出したと聞いて、さては松崎め渡邊としめし合せておそでを隠したものであらうと血眼になつてその行方を

渡邊の許へ縁付くやうに取計らうと云はれて松崎も大層喜んで、時に織部が参つたならばおそでは當方に居るといふ事を知らせろ」

松「知らせますれば御當家へ菊地が推参いたしおそでを引渡しなれなどと申すでございませう」

織「彼が何と申すともおそでは渡さぬ、菊地に参れと云へ」

松「然らばその事を申し傳へるでございませう」

自分住居に引取つて来た、と翌日出て来たは菊地

らぬさア何處へ忍ばしたかそれを云へ」

刀を引付けてにらみつけた

松「イヤおそでの行方はやうやく知れまじ拙者が隠したわけではない又此事に就ては渡邊も關係はござらぬ」

大「それは何れだ」

松「御家老吉田織部さまの許に居る」

大「ハテ不思議、どういふ縁故によつて吉田どのの許に居られるか」

松「それに就ては種々こみ入つた事情もあるとの事、手前も引取りに参つたが折悪く御主人が不在の爲にそ

でに會ふ事もありませぬ」

大「しからば拙者が参つておそでを受取つて参るであらう、どういふ事情があつて留置かそれは知らぬが當家へ一言の汰汰もなさらぬとは吉田さまの手落ち御家老にも致せ殿様にもせよ道理に背いた事をいたしてはゆるさぬ、早速談判いたす、不埒至極」



さがした、渡邊も松崎もおそでは何れへ参つたか次第によつては投身なぞいたしたかとこれも亦諸所を尋ねる、スルト吉田織部は松崎を呼び寄せて佐々木見山がおそでを助けて伴れて来た事を告げ又菊地は此方より談じつけて彼の非望を碎

大六、只さへ恐ろしい顔が一層凄味を帯びてさながら繪にある大江山の酒頭童子の如く

大「オイ松崎、貴公は怪しからんことをいたし居るナ渡邊としめし合しておそでを隠し居つたナ、今日迄七日あまり尋ねて居るがわか

何時も元気で目出度い、近頃は半分道場も繁昌いたして居るとのこと結構な事だナ」

大「ハイ幸と道場は日増しに盛大に起きます」

織「それは其方が剣法に傑出したし居るゆゑ、門人も殖えるかナ」

大「木の子ではございませぬ」

織「イヤそれは俺のたわむれだ、コレよ大六に茶を取らせろ」

斯う申すと静かに襖をあけて茶を持つて来たは松崎の妹おそで、大六はこれを見てデリデリと進み寄つた

三井タシク

電話八六五番

平町二丁目

市原醫院

平町田町
電話一〇一

酒場戦線異状あり

歐風料理開店のお知らせ

- A、新進のコックが腕試しの料理
- B、三三年平町カフエー界の尖端に起つ
- C、美給の精一杯なサービス

カフエー太陽

平町三丁目川岸

外科 X 光線科 性病科 外科

入院 隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

鹽豚
肉蒲鉾

田町 三三三屋

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番